（別紙4-1）

NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0172901688		
法人名	（有）旭川高齢者グループホーム		
事業所名	グループホームほーぷ旭川		
所在地	北海道旭川市永山12条2丁目5番1号		
自己評価作成日	平成29年1月11日	評価結果市町村受理日	平成29年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901688-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

近所にスーパー・公園・小学校があり、利用者が、買い物・散歩などに行きたいと希望があれば、徒歩にて行くことが可能である。各居室にトイレ・洗面台、クローゼットが完備され、定期の清掃に加え、利用者とともに、清潔な環境の維持に心掛けている。法人内のグループホームなどと連携し、地域の利用者を支援している。協力医療機関の受診の支援に力を入れており、人口透析の通院を含め、通院支援は事業所対応としている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

旭川駅から車で20分程の閑静な住宅街にあり、1階は6名、2階は9名の2ユニットの事業所である。建物内は、窓からの採光も良く明るい住環境で、居室にはトイレとクローゼットが設置され、プライバシー確保や利用者の自立を助ける設備が整っている。平成26年に当地に新築移転し、新たな地で住民との関係作りを進めており、運営推進会議では地域の情報を聞き、地域運動会に利用者と共に参加したり、防災面の相互協力に向けて意見交換を行っている。昨年5月から新管理者のもと、クリスマス会や誕生会、ゲームやカラオケなどの楽しみを工夫しながら、利用者がゆったりと自然体で暮らせるように努めている。前回の外部評価を受けて目標達成計画を作成し、現状の中でできる地道な努力を確認する事ができる。法人本部も介護保険業務や防災面等でバックアップしており、職員配置に不足が出た場合は、オーナーが業務サポートや職員の相談に乗るなどしており、法人と事業所職員が一体となって、利用者の安心感ある地域生活の支援に取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの時に、話をし日々努力しています。	法人全体の理念を基本として、玄関やユニットの要所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。毎月の会議の中で3項目の理念について、再確認の機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月の町内運動会に参加しています。	町内運動会に利用者と一緒に参加している。資源回収の協力や、周辺の散歩時に挨拶や会話を交わしたりと、周辺住民に認知され、少しずつ関わりが増えてきている。運営推進会議を通して地域の情報が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々との交流があまりない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティングで報告をうけ活かせる様努力しています。	行政や地域代表、利用者、家族の参加で2ヵ月毎に定期開催している。事業所の取組みを報告しながら、率直な意見や地域情報を得て、地域との交流や協力体制作りの足がかりとしている。	議事録や出欠案内の送付などして、家族の参加を要請しているが少ない状況である。開催日やテーマ内容の工夫などして、今後も参加要請の継続を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護のケースワーカーとも情報交換を行っている。	介護業務関係は、主に法人本部対応だが、保護課の担当職員とは、来訪時や電話等で密に連携している。包括センター主催のケア会議に管理者が出席し、事例検討や情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	毎月の会議では、日常ケアの検証を行い、気になる言葉使いは、管理者が随時注意している。身体拘束実施については、家族の同意を得て、3原則を踏まえ3ヵ月毎に身体拘束廃止委員会で現状を確認し見直しに取り組んでいる。	職員交替もあるので、最新のマニュアルを整備し、身体拘束に関する内容の理解や浸透を図る研修を実施し、全職員で共有する事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの際、成年後見制度について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の家族の方が施設を訪れた際、不安等を聞き説明を行い納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族の方が施設を訪れた際、家族等の意見を聞いて、運営に反映させている。	家族の面会時や電話を通して、利用者の状態の変化等を伝えている。家族の意見や要望は、検討してサービスに反映するようにしている。事業所の通信は発行していないが、行事等の写真を居間兼食堂に掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、意見・提案を聞く機会を設けている。	職員会議や申し送りでは、日常ケアを中心に話し合いを行っている。職員の希望を聞きシフト調整.に配慮している。月１回法人職員が来訪し、オーナーも業務サポートに入っており、業務上の相談がしやすい状況である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に努めているとは言えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を通じた向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様はじめ、家族様と連絡を取りながら本人が困っている事や要望などを聞き、利用者が安心して過ごせるようにコミュニケーションをとっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が来所された時など普段の生活などを伝え、家族のニーズを聞きながら、信頼関係が築けるようコミュニケーションを積極的にとっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を把握し、どのような方法で支援していくか記録をとり、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する際、「声掛け」やコミュニケーション作りを大切にし、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所や外出電話などを通して、本人と家族の絆をより深めあい、本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日会やイベントを通して、ホールでの語らいやコミュニケーションをとることにより、馴染みの人や場所の関係作りに努めている。	事業所移転に合わせて親類の来訪があり、本人の居室で気兼ねなく過ごせるよう配慮している。墓参や自宅への帰宅などは、家族に協力をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やおやつの時間など利用者様の集う時間にお互い語り合い、コミュニケーションをとることにより、皆が孤立せずに出来る場所作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院しても病院に様子を見に行き病院・家族から経過を聞いている。また、荷物を預かっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとコミュニケーションをとり、話を聞き支援している。	入居時の基本情報に加えて、年1回のアセスメントにより情報を蓄積している。日常場面や利用者との1対1での会話で意向等を把握、記録に残し、会議で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを把握し、本人から過去の話しを聞くなどし対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り・声掛けをしっかりする。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合いをし、意見を出し合っている。家族にも意見など確認している。	3ヵ月毎に利用者担当職員が現状評価を行っている。面会時などで家族の意向を確認し、サービス担当者会議を通して3ヵ月、6ヵ月を基本に介護計画を見直している。また、状態変化に対応して新計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何か変わったこ事があれば、報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会に来られる家族からも話しを聞いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味や特技などを聞き出し、活かせる事を探している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ています。なるべく希望を大事にし、受診している。	利用者家族の希望のかかりつけ医の継続は、家族とも協力しながら支援しているが、半数の利用者は、送迎付きの協力医療機関を受診している。週1回看護師の訪問があり、看護日誌や申し送りで情報を共有している。緊急時や夜間でも適切な指示を得られる体制である。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌を通し体調や行動の変化を情報収集し、受診やケアの対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院と連絡、病棟を訪れるなどし、情報得るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の要望を出来る限り支援、介護をさせて頂き急変時は病院対応できるよう主治医と相談	契約時に、重度化に関する対応の指針を基に利用者、家族に説明し、状態変化の段階毎に家族と話し合いをしている。現在は看取りケアの対応は出来ないが、事業所で対応可能な範囲の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに目を通すだけで実践する事ができておらずミーティングを利用し訓練をするべきと思う		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網と避難訓練に参加している。	6月に自主、9月には消防署の立会いで避難訓練を実施している。運営推進会議で参加を呼び掛け、地域住民が参加、見学している。備蓄品の確保や防災時の指示は、法人本部の対応になっている。	職員が手薄な夜間を想定した訓練の実施を期待する。また、災害時対応マニュアルを整備し、自然災害や停電等の緊急時に迅速且つ安全に対応、避難できるようシミュレーションや実践的訓練の取組みを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応には注意をしており、本人の意思や言葉を否定しない。	名前はさん付けで呼び掛け、関わりの中で言葉使いに注意を払っている。入浴は同性介助を基本として対応している。個人ファイルは事務スペースの所定の場所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対応可能であれば本人の意志を尊重。不可能な時は他の職員と相談したり家族の協力を得る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで物事を進めがちになっており、希望に応じる事が出来ない状況もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診で外出する時などは着替えを促し、着たい服を選んで頂くこともある。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の楽しみな物が出来るが、普段はなかなか難しい。一緒に入居者様と後片付けをしている。	利用者のできる範囲でテーブル拭きや茶碗拭きなど一緒に行う場合もある。食材納入業者を利用し、病人食や代替え食、形態変更に対応している。日常の希望には対応できないが、誕生日には本人の希望のメニューで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のバランスを考え食事提供は出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の一部介助・声掛け、出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄トイレの介助を実践しているが、失敗が多くなかなか難しい。	排泄が自立している利用者も多く、必要に応じて排泄チェック表を活用している。本人に合わせた声掛けや誘導をしている。個別の状況により夜間のポータブルトイレの使用や衛生用品の検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護度の人が多く、飲食物で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度の人が多く、なかなか難しい。	週2回入浴日を決め、日中の時間帯で入浴順の希望を聞き、状態によりシャワー浴で対応している。職員配置上、希望に合わせて柔軟な入浴対応は難しいが、時には入浴剤で香りを楽しんだり、歌や会話で楽しめる入浴を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、声掛けしたりして入眠していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内服は理解は出てきており、症状の変化によって服薬は出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を理解し、一人ひとりに生活の中に入れている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見・秋の紅葉・お誕生日会等と、夏は近くの散歩に元気な方は出かけるようにしています。家族の希望で外出・外泊は出来る。	季節の良い時期は、近隣の散歩に出掛けている。外出行事として花見や紅葉バスツアーを実施し、地域の運動会に参加している。雪まつり見学を予定している。	個別の外出は難しい状況であるが、今後、買い物や外食など希望に合わせて外出の機会作りに取り組む方向であるので、その実践を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使い道や所持している金額を把握して無駄の無いようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者能力に応じて施設内の電話を使用して、掛けて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の手作りの折り紙や写真を飾ったり、生活感や季節感を取り入れています。	バリアフリーの建物内部は、窓からの採光も良く、明るい環境になっている。台所と事務スペースが居間兼食堂に対面しており、利用者と会話を交わしながら見守りができるようになっている。壁には季節の装飾や行事の楽しげな写真、利用者のぬり絵などを掲示されてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで、ラジオ体操やカラオケ、紙芝居をしたり絵本を置いたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方から、使い慣れた物を持ってきてもらう。衣類は施設の方で買って、個人に使用させることもある。	居室内の一面の壁色がそれぞれ異なり、自室は分りやすくなっている。トイレとクローゼット、物干しポールが設置され、自立した生活を助けている。箪笥や鏡台、仏壇など大切な物や使い慣れた物品などが持ち込まれ、安心して過ごせるよう居室作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のトイレには、トイレの表札をかけたりしている。居室内は、安全で過ごせるように障害物が無いように配慮している。		